



## 国内外で存在感を発揮するめっき企業

ヒキフネは1932年の創業以来、めっき一筋に取り組んできた企業。宝飾品や日用雑貨などに使われる「装飾めっき」、金属に新たな機能を加える「機能めっき」、通信用の光ケーブルなどに使われる「光ファイバーへのめっき」の3つが、事業の柱だ。世界的に有名な高級ブランドバッグ向けの金具から、リニアモーターカーなどに使われるコイルのめっき加工まで、幅広い分野をカバー。技術力を武器に、国内外で大きな存在感を発揮している。

ヒキフネでは創業からずっと、装飾めっきの売り上げ比率が圧倒的に高かった。しかし、この分野は「水もの」だと、代表取締役社長の石川英孝氏は語る。

「ファッションや宝飾品には流行があるため、めっきへのニーズにも波があります。また、樹脂化や塗装など新手法の普及で、金属めっきの需要が小さくなると

いう恐怖心は、常に持っていました。そこで、装飾めっきという『目前のニーズ』だけでなく、『未来へのシーズ(=種)』である機能めっきを強化したいと考えていたのです」(石川氏)

そこで注力したのが、非金属のガラスにめっきを行って光ファイバーの機能性を高めるプロジェクトだった。

## 苦しい中で次につながる事業を育てた

光ファイバーへのめっき技術は、2000年頃に入ったときあがった。ところが、折り悪くITバブルが崩壊し、光ファイバー関連の需要是最悪の状態に陥った。

「技術を保つには、めっき液を管理する施設を維持しなければなりません。また、めっきの品質はそのときの気温や湿度などに大きく影響を受けます。そこで、さらに実験を繰り返して技術の完成度を高める必要も

ありました。当時は、年に数千万円規模のコストがかかっていましたね。一方、売上は2〜3万円という微々たるもの。正直言って、負担は軽くありませんでした」(石川氏)

社内では、光ファイバー関連のプロジェクトを放棄する意見も出たという。しかし、ヒキフネは諦めなかった。

「装飾めっきは、ある程度の売り上げが期待できます。しかし、いずれ市場が縮小する危険性は否定できません。装飾めっき以外の大黒柱を育てることは、どうしても実現しなければならぬことでした。それに、当時は携帯電話の普及率が爆発的に高まっていた頃です。近い将来、通信インフラの整備は加速度的に進む。そうなれば、光ファイバー向けめっきの需要が必ず高まるはずだという読みもあったのです」(石川氏)

予測は当たった。細々と続けていた光ファイバー向けめっきは、2010年頃から急激に需要が増加。売り上げは伸び、現在では装飾めっき4割・機能めっき3割・光ファイバー向けめっき3割という売上比率になったそうだ。

「事業の3本柱が並び立ち、企業としては理想的な状況です。もし、あの日光ファイバーを放棄して装飾めっきにすがっていたら、当社はじり貧になっていたかもしれません。苦しい中で『シーズ』にこだわり、育て続けたのがポイントだったと思います」(石川氏)



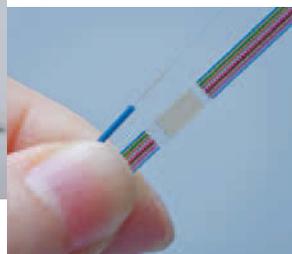
## 「青いめっき」を次世代の柱に！

現在、ヒキフネが注力しているのが、高級感たよる「青いめっき」だ。

従来のめっきは、金・銀・黒・ピンクなど限られた色しか出せなかった。しかしヒキフネは、めっきで青を表現することに成功したのだ。

「今、さまざまな業界から問い合わせが来ています。例えば自動車業界からは、車内の装飾品や自動車キーに青めっきを使いたいという要望が多いですね。背景にあるのは、ハイブリッド車や電気自動車の普及です。エコカーは青をイメージカラーとしているものが多く、それゆえに青めっきへの関心が高いのでしょう。まだ量産化はできていませんが、近い将来、必ず実現するつもり。次世代の稼ぎ頭になると期待しています」(石川氏)

ヒキフネは、既存技術の改善に熱心だ。それが、業界内で確かな評判となり、次の受注を呼び込んでいけるのだろう。だがその一方で、新たな分野への挑戦も欠かさない。常に未来を見据え、勇気を持って投資をして次世代のビジネスシーズを育てる。その姿勢こそが、同社を輝かせる原動力となっているのかもしれない。



- (2ページの写真) 青めっきの試作品を持つ石川氏。  
めっきならではの高級感は、エコカーや宝飾品などにピッタリだ
- ① 銀めっきを施している現場の様子
  - ② 装飾めっきの一例(左)と光ファイバー
  - ③ 2012年12月にはタイ工場を設立した

### 職員から～取材を終えて～

そのめっき技術で確固たる地位を確立する当社は、2012年にタイ王国に現地法人を設置。「ヒキフネクオリティをタイ、そしてアジアへ。」をキーワードに、海外での技術継承にも注力。本社工場長の現地派遣や現地スタッフの3年間におよぶ本社研修など、人材育成にかかる投資を惜みず、常に未来を見据えた経営を実践されています。(企画課 中野洋平)

### 株式会社ヒキフネ

(会社概要)

代表者：代表取締役社長 石川英孝

資本金：2400万円

従業員：150名(2017年3月現在。グループ会社含む)

所在地：葛飾区東四つ木2-4-12

TEL：03-3696-1981 FAX：03-3696-4511

URL：<http://www.hikifune.com>